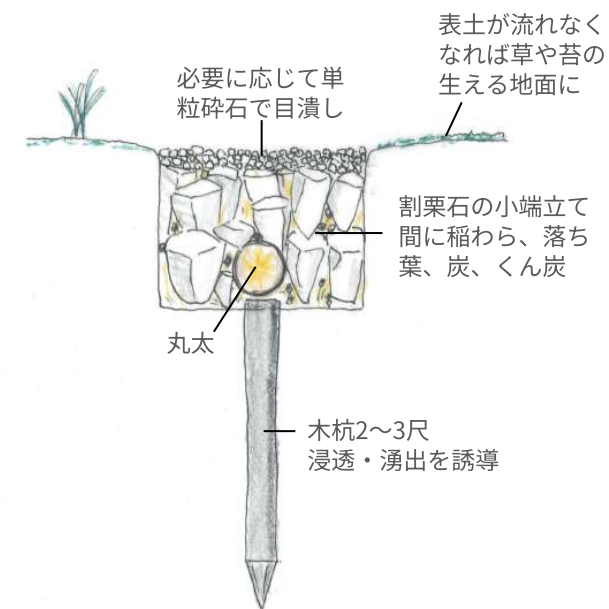


施工図：暗渠工

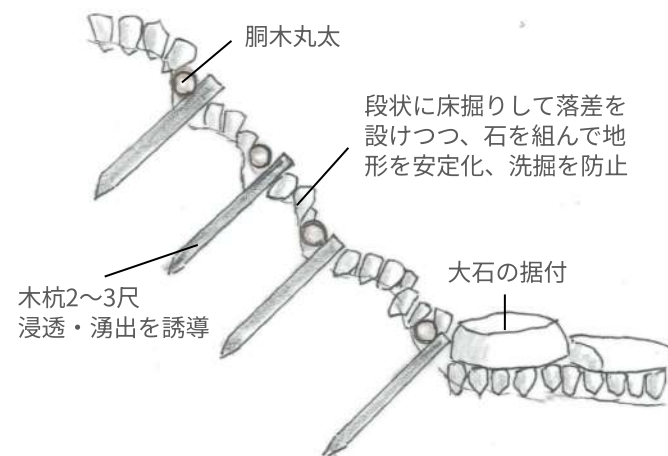
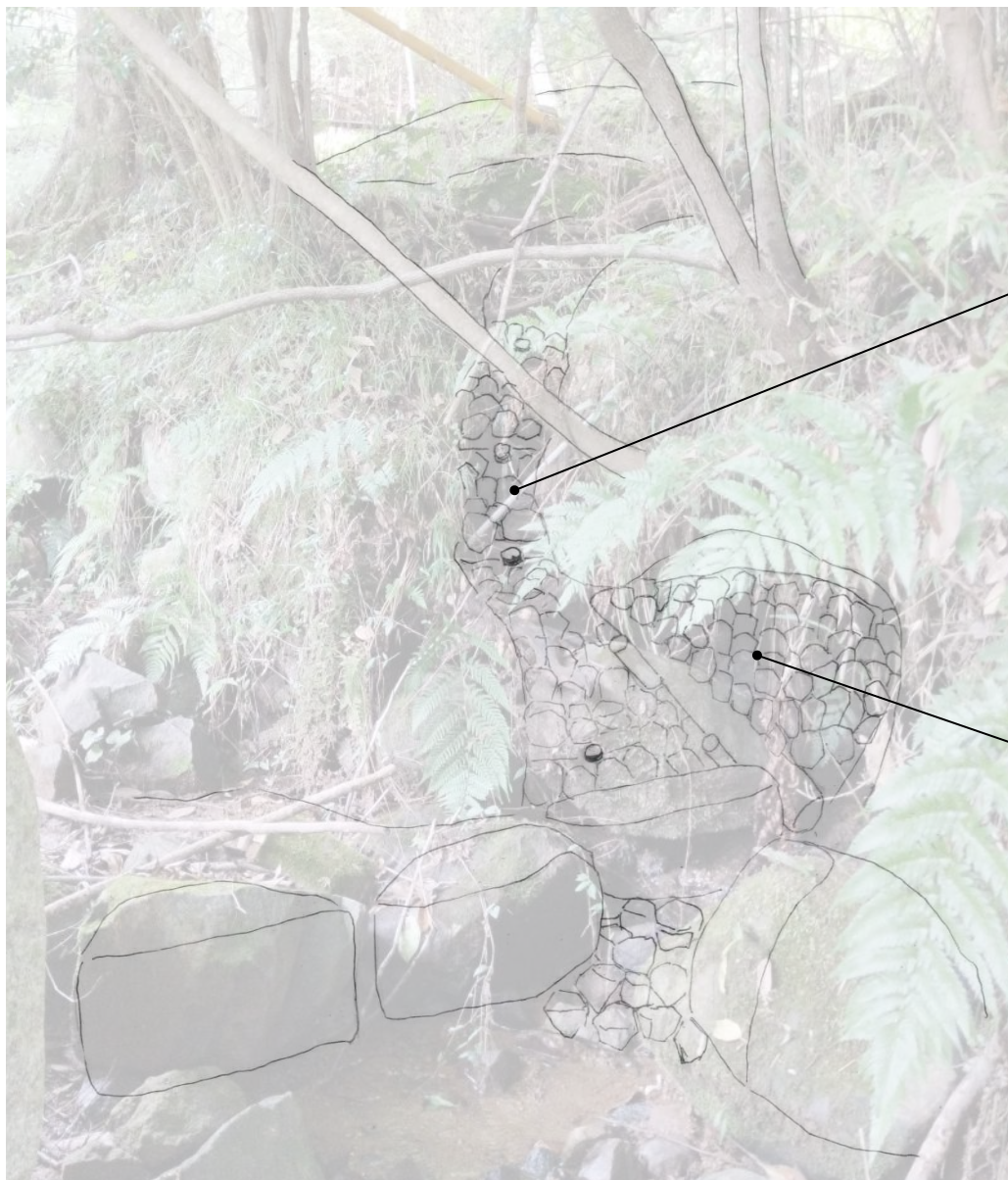
現状、既存暗渠が土砂で埋もれ、増水時には水は溢れて、お地蔵様の前を通り道路へ流れ出ている。
暗渠を作り直して、流路を安定化。沢の出口となるこの箇所の水脈の滞りを解消する。
石、丸太、杭による構造に落ち葉や炭を挟み込み、水は流すが土砂は 濾過される暗渠とする。



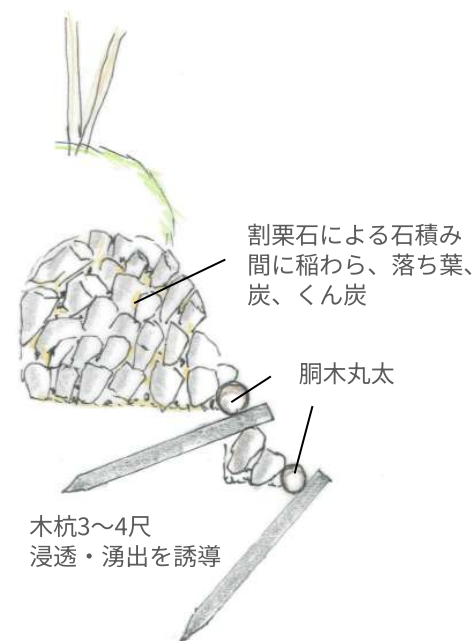
暗渠断面図

施工図：石組み落差工と、崖線の崩落箇所の石積み

元々の流路ではなかった箇所が増水時に洗掘されて流路となり、表土を固めながら土砂を流し続け、その脇の崖線がオーバーハング状に崩落している。水脈の停滞や大木の伐採の影響と考えられる。
木杭を打込み土中の水の動き（浸透・湧出）を促し、大石・小石・割栗石を組み洗掘を防止する。
崩落箇所は石積みをし、地形を安定化、崩落を防止する。



石組落差工 断面図

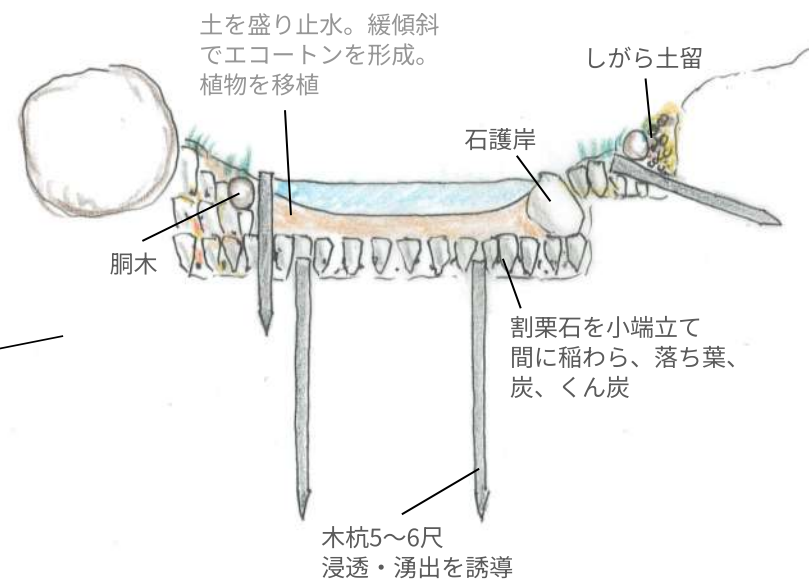
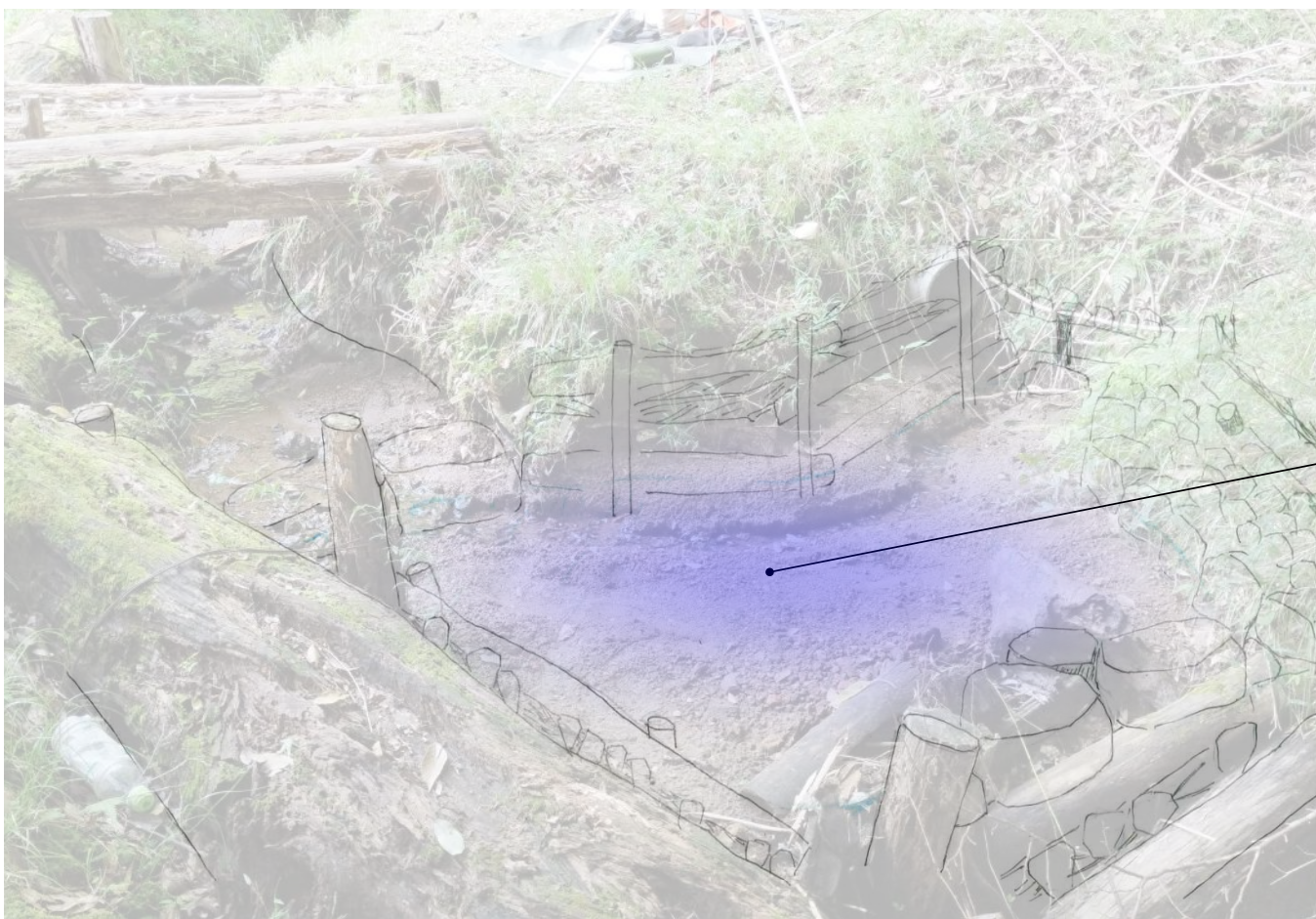


崩落箇所の石積み 断面図

施工図：沢の末端の止水域

沢筋全体に土砂が流れ込み、堆積するところでは開放水面が失われている。ここから流出する生物は、暗渠やコンクリート護岸の河川へと流れ去り、生存は望めなくなる。ここを生物の末端の受け皿となる止水域にする。

- ・床掘りした底面に、木杭を打込み水の動き（浸透・湧出）を促し、割栗石小端立ての基礎を設け、水の動きを損なわない基盤をつくる。
- ・丸太・しがら土留や石組で護岸する。
- ・止水環境とエコトーンを形成するために緩傾斜となるように土を盛る。



止水域 断面図